

自己啓発のために

1 自己啓発とは

自己啓発とは、職員一人一人が、自主的・自発的に自分を向上させようとする意欲に基づいて自ら目標を立てて学習することです。これからの時代は、自己啓発をしなければ状況の変化に対応していくことができません。

自己啓発は、各人の必要に応じて実施するものですから、その目的や方法は様々ですが、次の3つに要約することができます。

(1) 担当している職務のための自己啓発

自分が担当している職務を1日も早くマスターして、道庁職員としてのプロになることをねらいとします。自己啓発は自発的な意欲に基づいて実施するものですから、まず自分で確実に学べる範囲のことは自分でやり、その上で分からないことがあれば先輩や上司の指導を受けましょう。

現在担当している職務ばかりでなく、将来担当することが予想される職務についても、それに適応できる知識等を習得しておくことが必要です。

また、技術革新や、新たな時代の変化に対応するためにも、新しい知識や技能の修得に努めることが大切です。

(2) 能力開発のための自己啓発

自分がどんな潜在能力や将来の可能性を持っているかは、なかなか分かりにくいものです。そこで自分の潜在能力を顕在化するため、あるいは、将来自分が保有したい能力を開発するため、自己啓発をする必要があります。

(3) 人間形成のための自己啓発

知識、能力ばかりでなく、豊かな人間性を備えることも、人間として大切なことです。人間として成長し、完成していくためには、性格、能力、態度等の統合された全人的な人格を向上させていかなければなりません。私たちは、常に将来を志向し、生涯を通じて自己啓発を継続することにより、自分の可能性を最大限に実現することのできる人間になることを心掛けましょう。

2 自己啓発の進め方

自己啓発の基本的な進め方は、次のとおりです。

- (1) 自己啓発の計画を作成すること
- (2) 計画に基づいて学習を継続的に進めること
- (3) 学習の経過や結果について、評価、反省を行うこと

次に自己啓発計画の作成について、具体的な例を示します。

〔目標設定理由〕 北海道は北方圏で重要な地位を占めており、これからは国際間の交流が一段と進むであろう。したがって、外国人と十分な意思の疎通が図られるようになる必要がある。

〔目 標〕 英会話ができるようになる。

〔構想計画〕 英語検定の3級から順にパスして、3年以内に1級検定合格をめざす。

〔具 体 策〕 ラジオ、テレビなどの英会話テキストを購入する。これらの英会話講座のすべてを受講する。外国人と積極的に英会話をするように努める。一人で外国旅行をする。

〔考えられる障害とその対策〕 自分は意志が弱いから長続きするかどうか不安である。その対策として、自分と同じ目標を持つ人を職場で探して、グループで励まし合いながら学習する。

〈自己啓発の具体的な進め方についての留意点〉

ア 目標の設定

どんな理由で、何を、いつ、どの程度やるかを明確にしておかなければ、せっかくの意欲が空回りすることになります。目標は、自分の実力にあったもので、現実に達成が可能なものでなければなりません。さらに、「いつかやろう」ではなく、期限を決めて「いつまでにやる」とすることが大切です。

イ 実施水準の明確化

どの程度まで目標を達成すれば成功かという実施水準を明確にすることが必要です。自分を客観的に認識して目標水準との距離を知り、一步一步着実に、この距離を縮めていきましょう。

ウ 実施の自己管理

自己啓発に実行力が必要なのは当然のことです。自己啓発は、自己統制によって実行するものであり、怠けたところで誰からも非難されることはありませんが、それだけに強い意思を持って着実に継続していかなければなりません。継続することによって、自己啓発が習慣化されるようになれば、その効果は大きいものとなります。

エ 実施の評価

一定の期間が経過した後は、目標がどこまで達成できたかを自分で評価し、反省して見ることです。目標が計画どおり達成できていない場合は、その理由や原因を究明し、応急的な対策の検討や、計画全体の見直しも考えてみましょう。

実行計画を効果的に進めるためには、日常次のようなことを行ってください。

視野を広げるために、新聞、雑誌等に目を通す。

仕事に役立つ実務書、専門書を読む。

人生について考え、また教養を高めるための読書をする。

1日のうちで読書のための時間を定める。

仕事に役立つと思われる研究会等に積極的に参加する。

職場研修、集合研修、自主研究活動に積極的に参加する。

通信教育や各種講座を利用する。